

# ほのぼの

平成31年2月号 (NO, 179)

会 日 平成31年2月8日 (金)

会 場 パレット柏 (Cルーム)

出席者 14名 (欠席投句1名)

講 師 山本由宇呆 編集：関根庄五郎

## 『第32回サラリーマン川柳コンクール』

大館 利雄

今年も第一生命の「サラリーマン川柳」の投票が始まった。今年の応募総数は 43,631 句で、例年通り秀作 100 句が発表されたが、次は読者投票によってこの中から入選作 10 句が選ばれる。

私は、この企画が始まった頃は、勤務する会社からある取引先に出向していたが、その会社は社員の生命保険契約先を第一生命に絞っていたので、第一生命の外勤社員に薦められて投票をするようになり、十数年前までは続けていた。

そのうち興味が薄れていったのは、事務局の選考基準が、「面白おかしければ、川柳のルールに副わず、中8であろうが、下6であろうがお構いなしに選ばれる」という方針にあった。

ところが、何たることか、今年の 100 句に選ばれた句はルールを逸脱している作品が殆どなく、真面目さが目立つ句が増えた。

そこで、この中から以下の 5 句を独断と偏見で選んでみたが、久しぶりに投票しようかと思っている。

(投句)

- ・再雇用昨日の部下に指示仰ぐ
- ・本題を外れ会議は活気付く
- ・納税で知らない土地もふるさとに
- ・病院へ来ない仲間を心配し
- ・付度でちがう意見が一致する

(作者)

- 白いカラス
- 安田蝸牛
- なにわのあっちゃん
- カープひろし
- 団塊世代



◆会員の活躍 おめでとうございます！

☆よみうり文芸（千葉）

上田日差し選（俳句）

佳作 村芝わが家代々かたき役

宮本次雄

瀬々倉卓治選（川柳）

入選 へその緒の八個は母の金メダル

宮本次雄

入選 ひと駅を歩いて伸ばす歩数計

宮本次雄

☆デーリー東北新聞社（八戸）

瀧尻善英選「ゴール」

特選 終の先だれも知らないその景色

稲垣優子

佳作 為せば成る小さなゴール科してみる

高山睦子

◆「急ぐ」（関根評&票数）

○ 急がねば日に日に育つおなかの子

宮本次雄

○ 1 急くなかれ大腿骨が叫んでる

高山睦子

○ 横断中急ぐが足はマイペース

稲垣優子

△ 日めくりを急いで破る 7 日分

杉野ふみ子

○ 2 煽られてエスカレーター駆け上がる

佐竹なでしこ

なぐさめる手立てなくても手を握る

熊谷 勇

○ 6 急ぐ程思い出せない捜し物

秋山征枝

△ 改憲を急いで呉れと日本海

大館利雄

教育の先取り急ぐ時代かな

尾川恵子

△ 今でしょ老化を防ぐ繊維質

巾 康友

○ 2 終活で身辺整理に大わらわ

楠 勝夫

1 せっかちに急がば回れなどは無理

関根庄五郎

○ 1 急がぬと溜めた雑事に日々追われ

大杉 豊

ネイルアート嫁の指先空回り

二宮千恵子

○ 1 急ぐべし脳トレ塾の仲間入り

猪爪正美

◆「自由吟」（関根評&票数）

- |                                     |               |
|-------------------------------------|---------------|
| ○ 1 激励に退路断たれた稀勢の里                   | 宮本次雄          |
| ○ 5 寢息聞き聞かせて無事の老いふたり                | 高山睦子          |
| ○ 2 寂しさに負けて注文するアイボ<br>権力の金が魔力を目覚めさせ | 稲垣優子<br>杉野ふみ子 |
| △ 2 涙する元横綱にもらい泣き                    | 佐竹なでしこ        |
| ○ 履き替えた靴に託して迂回する                    | 熊谷 勇          |
| ○ 2 夫婦仲愛と憎しみ紙一重                     | 秋山征枝          |
| ○ 借老のルーツは酔いがさせたキス                   | 大館利雄          |
| △ 孫のこと責任無いが気にかかる<br>顔ぶれが違えばそこで新年会   | 尾川恵子<br>巾 康友  |
| △ 年老いて転ばぬように心がけ<br>1 長生きへ八方視野の好奇心   | 楠 勝夫<br>関根庄五郎 |
| △ 太古から入れ替え制よこの地球                    | 大杉 豊          |
| ○ 1 空袋提げていそいそ里帰り                    | 二宮千恵子         |
| ○ 参道に飛び交う言葉多国語や                     | 猪爪正美          |

◆句の鑑賞

「福寿草松にしたがいそろかしこ」

（川柳マガジン1月号：新家完司 鑑賞 より）

☆まず、そろかしこって？「候ふ・・・かしこ」と言うことでしょうか、手紙文みたいでもありますが。柔らかい黄色の福寿草が松に寄り添っている感じで、もしかすると 妻が夫に従いますよと詠んだ句のようにも思えますが、とても奥の深い句でよくわかりません。（佐竹なでしこ）

☆福寿草は正月飾りと同じように扱うと良い、とされているところから、松竹梅と並んで飾られる様子を表しています。「そろかしこ」は共に手紙の書き出しや、最後に用いられる言葉で、まさにめでたい様子をかしこまって表現している句です。（大館利雄）

## 『尋常科用語讀本卷十』を読んで

佐竹なでしこ

昨年、昔の教科書の復刻版を貸して下さった方がおり、興味深く読ませて頂きました。この教科書は小学五年生が使っていたもので、用紙は当時をそのまま再現したセピア色で懐かしく思いました。

様々なお話が載っていましたが、その中で特に心に残ったのは「稲むらの火」という作品です。これは1854年に起こった「安政南海地震津波」での出来事をもとにした物語です。村の高台に住む庄屋五兵衛は、地震のあと津波の襲来に気付き、自分の田にある刈り取ったばかりの稲束に火を付けました。村人達は消火の為に高台に集まり津波から逃れることが出来ました。

五兵衛のすばらしい機転と犠牲的な精神によって村人達は救われたのです。自然災害が次々と起こる昨今。昔はこんな立派な人がいたと思うと本当に胸が熱くなり感動致しました。

「大震災起こらぬように祈る日々」



### ほのぼの3月度予定

日時 3月8日(金) 9:30~12:00

場所 パレット柏 (Gルーム)

宿題 「活路」「自由吟」各1句 2/27まで

互選・席題を予定

### <余話>

一日も早く「冬越し」が出来ればと願う日々です。

昨今の降雪を見ると春はまだ先のようです。近くの成田空港では雪かきのニュース。千歳空港のようにも見えました。それでも少しずつ春の知らせが。河津桜等がそれです。我が家の庭先でも水仙の花が春を呼んでるようです。

話は変わりますが人口減の多い中で、ご存じの通り「沖縄県」が増えている。高齢化社会のひとつの現象にも見えます。寒さ回避等が理由かも知れません。

(関根庄五郎記)